

2. 情報を集める

(1) 病名、性質、病期

がんと付き合っていくには、ご自身のがんの正確な「病名」、詳しい「性質」、そして「病期」を知ることが大切です。

まず「病名」ですが、肺癌という病名は、治療を考えるうえでは不十分です。肺の「小細胞がん」、肺の「腺がん」といった正確な病名を担当医から聞くことが必要になります。

つぎに「性質」です。近年では、より詳しいがんの性質や遺伝子の変異を調べる検査を行うことが多くなってきました。

がんの性質によって使用する薬剤を選択したり、その効果が事前にある程度わかるようになってきています。特に、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などのがん細胞の持つ特異的な「性質」を利用した新しい治療薬が多く使われ、効果を上げるようになってきています。

そして「病期」は、がんの進行の程度を表し、「ステージ」とも呼ばれます。病期が「I期からIV期」のどれに当たるのかを担当医から聞いてください。同じがんでも、病期の違いで治療法が変わることが多いため、正しく把握することが重要です。

がんはどこから始まったのか（原発巣）、どこまで広がっているのか（浸潤や転移）についても知ってください。たとえば「S状結腸が原発巣、肝臓に転移しているが、肺には転移していない」などです。

これらの情報を確実に手に入れるために、担当医に対して「私のがんの正確な病名や詳しい性質、病期を紙に書いてください」とぜひお願いしてみてください。

面談にのぞむときの質問集  P92



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

 「がんの病期のことを知る」

(2) 担当医の説明を聞く

がんの診断がついた段階で、外来担当医が患者さんに診断名・病期・今後の治療方針などの説明を行います。このとき、ひとりやふたりではなく3~5人で聞きましょう。ご家族や頼りになる友人に同席していただくのもよいことです。よく「家族に心配はかけたくないので、ひとりで聞きたい」とか「子どもが内地で働いていて同席できない」という患者さんがいますが、がんになったことは人生の一大事です。なるべく都合をつけて、今後の治療の際に頼りになる方に同席してもらう道を探るのが大切です。



通常の外来日に説明を聞く場合、時間が十分にとれないことがよくあります。事前に担当医にお願いして、30分以上の時間をもらいましょう。それができない場合は、外来日以外に約束をして、改めて説明を聞くのもおすすめです。担当医や看護師に申し出るか、がん相談支援センターに相談してみてください。

説明された内容はメモに残すとあとの確認に便利ですが、落ち着いて話を聞くのは難しいものです。同席する人を書きとめてもらうようお願いしてみてください。担当医に聞きたいことは当日までに「面談にのぞむときの質問集」(P92)に書き出して、説明のときに携帯しましょう。

また、説明は一度限りのものではありません。1回の説明で理解したり、今後の方針を決めることがむずかしいことは、担当医も十分に理解しています。どうぞ遠慮せずに、もう一度説明してほしいと、担当医（または看護師やがん相談支援センター）に伝えてください。



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

-  「医療者とよい関係をつくるには」
-  「がんに関わる“チーム医療”を知ろう」

(3) セカンドオピニオン

担当医とは別の医師の意見を聞くことを、セカンドオピニオンといいます。ここでは、①診断の確認、②治療方針の確認、③その他の治療方法の確認とその根拠を聞くことができます。担当医と同じ判断となることもあります。それでも今の選択が正しいことがわかると、納得して治療を受ける気持ちになります。ときには医師によってすすめる治療が違う場合もあり、よりよい治療法が見つかることもあります。

担当医は、がんの診断がついた段階で、患者さんにセカンドオピニオンを聞くようにすすめることが一般的となっています。

患者さんからも「セカンドオピニオンを聞きたいので、紹介状やデータをお願いします」と担当医に伝えましょう。担当医との関係が悪くならないかと心配になるかもしれませんが、多くの医師はセカンドオピニオンを聞くことは一般的なことと理解しています。納得した治療法を選ぶために、気兼ねなく相談してください。その際は、セカンドオピニオンにおすすめの病院と専門医を複数紹介してもらいましょう。

①セカンドオピニオンの受診方法

まず、担当医に相談し、希望先の医療機関に申し込み（予約）をしましょう。次に紹介状や画像などを担当医から受け取り、予約した医療機関でセカンドオピニオンを取りましょう。取った後は、担当医に必ず報告し、その意見を参考に今後のことを相談しましょう。

②セカンドオピニオンの費用

相談料の目安として30分～1時間程度で、沖縄県内の場合1万円～2万円程度、県外では2万円～5万円程度となっています。また、別途診断料が発生する場合があります。

詳しくは、沖縄県がん診療連携協議会ホームページをご参照ください。

➔P16



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

➔「セカンドオピニオンを活用する」

(4) セカンドオピニオン実施施設



(2023年12月現在)

連携拠点病院 がん診療	琉球大学病院(医療福祉支援センター)	☎ 098-895-1371
	沖縄県立中部病院	☎ 098-973-4111
	那覇市立病院(地域医療連携室)	☎ 098-884-5134
診療病院 地域がん	北部地区医師会病院	☎ 0980-54-1111
	沖縄県立宮古病院	☎ 0980-72-3151
	沖縄県立八重山病院	☎ 0980-87-5557
その他の医療機関	沖縄県立北部病院	☎ 0980-52-2719
	中頭病院	☎ 098-939-1300
	中部徳洲会病院	☎ 098-923-1091
	ハートライフ病院	☎ 098-895-3255
	国立病院機構 沖縄病院	☎ 098-898-2121
	浦添総合病院	☎ 098-879-0630
	宮良クリニック	☎ 098-878-3311
	沖縄赤十字病院	☎ 098-853-3134
	沖縄協同病院(地域連携課)	☎ 098-853-1201
	那覇西クリニック	☎ 098-858-5557
	那覇西クリニックまかび	☎ 098-884-7824
	与那原中央病院	☎ 098-945-8101
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	☎ 098-888-0123
南部徳洲会病院	☎ 098-998-3221	
友愛医療センター	☎ 098-850-3811	

※沖縄県「がん診療を行う医療施設」に基づき、琉球大学病院がんセンターより各医療機関に照会の上、同意のあった医療機関を掲載しています。

(5) 書籍とインターネットで情報をさがす

■ 推奨書籍

 **患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版**
編著: 国立がん研究センター 

■ 各種がんの診断や治療、医療機関などに関する情報サイト

国立がん研究センターがん情報サービス
<https://ganjoho.jp>



 **がん情報サイト Cancer Information Japan**
<https://cancerinfo.tri-kobe.org>
公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターのサイトです。

■ 沖縄県のがん情報、がん対策に関するサイト

沖縄県がん診療連携協議会うちなーがんネット がんじゅう
<https://www.okican.jp>



■ がんの予防や検診、がん患者さんやそのご家族に必要な情報サイト

 **公益財団法人 日本対がん協会**
<https://www.jcancer.jp>

■ 免疫療法についての情報サイト

国立がん研究センターの免疫療法情報サービス
https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/immunotherapy/immu02.html



■ 希少がんについての情報サイト

 **国立がん研究センター希少がんセンター**
<https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/>

国立がん研究センター中央病院 希少がんホットライン


 **03-3543-5601** (平日 9時~16時)

希少がんについて、お困りのことや不安なことがあればご相談ください。

全国の希少がんホットライン

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/rcc/hotline/index.html>



 **九州大学病院希少がんセンター 希少がんホットライン**

 **092-642-6134** (平日 12時~16時)

<https://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/center/department/kishogan>
専任の看護師が、患者さん・ご家族、医療関係者からの希少がんに関するご相談をお受けいたします。

